

下肢閉塞性動脈硬化症の検査・治療について

外来にて、足関節/上腕動脈血圧比(ABI)などの簡便な検査から、超音波検査、造影CT、下肢MRAなどを行い、下肢動脈の評価をすることが可能です。治療が必要な際は、入院でのカテーテル検査による精密検査が必要になります。カテーテルを用いた下肢動脈造影検査の際には、冠動脈造影検査を一緒にすることも可能です。入院期間は、1~2泊です。

治療は、血管内治療(ステント、バルーン)、バイパス手術(自己静脈グラフト、人工血管)、内科治療があります。検査の結果をみて、これらの治療を検討、提案させていただきます。カテーテル治療の場合は、主に足の付け根や肘の動脈から治療を行います。局所麻酔で行う比較的体に負担のない治療になります。入院期間は、心臓のカテーテル治療と同様に2~3泊です。近年、大腿動脈領域において薬剤溶出性ステントや薬剤コーティングバルーンの使用が可能となり治療成績が向上をしております。

